

第1回 看護師のための認知症ケア講座 開催のご案内

2025年には、認知症高齢者は約700万人に上ると言われ、実に65歳以上の5人に1人が認知症を持つと言われています。認知症は誰もが身近な病気であり、超高齢社会を迎えた日本では、医療・介護の従事者は全員、認知症ケアのプロであることが求められるようになるでしょう。このような背景から、今般の平成28年診療報酬改定では認知症ケア加算が新設され、医療保険でも身体拘束廃止に向けての取り組みがようやく本格的に進められようとしています。認知症は、医療関係者のみでなく地域としても対応しなければならないものですが、その要となるのは看護師の皆様です。本講座では、認知症を知り、認知症をもつ人と向き合い、多職種チームでよりよいケアを提供できるよう、看護師の皆様に焦点を絞った研修を行います。奮ってご参加くださいますようお願い致します。

【1日目】6月25日（土）

12:55～ 13:00	開講挨拶	
13:00～ 14:20	認知症の原因疾患と病態・治療 講師：中野正剛（日本認知症学会指導医・日本老年精神医学会専門医・老年病専門医） 看護師も医師とともに、認知症の症状を引き起こす原因疾患に向き合うことが認知症ケアの基本となる。認知症の予防や治療により進行を遅らせることも含め、認知症疾患そのものを知ろう。	
14:30～ 17:00	入院中の認知症患者に対する看護に必要なアセスメントと援助技術 （演習含む） 講師：田中志子 内田病院理事長（日本認知症学会指導医・老年病専門医） 認知症の人に適切な看護を提供するためには、そのファーストステップとして、アセスメントをもとにケアプランを立てることが必要であろう。そのために知っておかなければならないこと、見落としはならないことは何かを考えよう。	
	演習	その患者に対するアセスメントの情報として求められているものは何か、また、必要な援助技術は何かを考える

【2日目】6月26日（日）

9:00～ 11:20	コミュニケーション方法及び療養環境の調整方法 （演習含む） 講師：梅原 里実 高崎健康福祉大学（認知症看護認定看護師） どのように認知症の人とコミュニケーションをとればよいのか。 その人が暮らしてきた生活環境を大切に、施設内での環境、あるいは地域での環境を整え、より穏やかに過ごしてもらうことを考えよう。（昼食休憩30分含む）	
	演習	重度認知症の困難症例等を提示し、コミュニケーションのとり方、医療チームでの対応の仕方などを、ディスカッションをとおして考える
11:30～ 14:00	行動・心理症状（BPSD）、せん妄の予防と対応法 （演習含む） 講師：田中志子 内田病院理事長（日本認知症学会指導医・老年病専門医） 認知症の人をケアする上で一番の問題とも言えるのは、BPSD、せん妄等であろう。しかし、それは認知症の人にとっての問題ではなく、周囲にとって大きな問題であるのかもしれない。 ケアのレベルアップによって、これらの問題はどうか変わっていくのかを考えよう。	
	演習	BPSD、せん妄の対応の困難事例についてディスカッションをとおして考える

14 : 10～ 15 : 30	認知症に特有な倫理的課題と意思決定支援 講師：戸谷幸佳（特別養護老人ホームくやはら老人看護専門看護師） 身体拘束が認知症の人に与える影響、エンドオブライフの意思確認など、患者、家族の視点に立ちサポートすることを考えよう。
15 : 30	閉講

(プログラムの内容は変更となる場合がございます。ご了承ください。)